種子冷蔵におけるトルコギキョウの品種比較試験（平成 19 年度）

北九州地域農業改良普及センター
北九州市立総合農事センター

1　目的

市内のトルコギキョウ栽培は、秋までの出荷がほとんどであり、出荷期間の拡大が望まれている。しかし、高温時の育苗によるロゼット回避のための冷房育苗施設は導入コストが高価になるため、低コスト栽培として種子冷蔵のみを行い、品種による生育の比較試験を行なった。

2　方法

（１）品種比較：トルコギキョウ 16 品種

エースホワイト、エクセルスカーレット、エクローサグリーン、キュートパープル、キングオブイエロー、ダブルミニホワイト、ニューリネーションアプリコット、パピオンピンクフラッシュ、ピーターブルーライン、ピッコローサスノー、エクローサピンクフラッシュ、ピッコロワイン、プラチナバイオレット、ボレロホワイト、モレットマリン、ロジーナブルー

（２）育苗法比較：セルトレイ育苗、ゲル浸漬処理種子直播

○試験区

	冷蔵処理無	冷蔵処理有
セルトレイ育苗	対照区	試験区１
ゲル浸漬処理後直播	－	試験区２

※冷蔵処理：10℃、暗黒条件、１ヶ月間

○作型

	6 月	7 月	8 月	10 月
対照区（通常育苗＋移植栽培）		7/4~5 播種、通常育苗	8/20~23 定植	10/10 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ処理 50ppm
試験区１（種子冷蔵＋移植栽培）	6/18~21 播種、冷蔵処理 10℃、１ヶ月	7/19 通常育苗	8/20~23 定植	10/10 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ処理 50ppm
試験区２（ゲル、種子冷蔵＋直播栽培）	6/18 種子浸漬、冷蔵処理 10℃、１ヶ月	7/23 直播		10/10 ｼﾞﾍﾞﾚﾘﾝ処理 50ppm

3　結果

	対照区 ジベレリン 無処理	処理	試験区１ ジベレリン 無処理	処理	試験区２ ジベレリン 無処理	処理
エースホワイト	E	AA	AA	AA	AA	AA
エクセルスカーレット	E	D	AA	AA	C	AA
エクローサグリーン	E	AA	AA	AA	AA	AA
キュートパープル	E	D	D	AA	B	AA
キングオブイエロー	E	AA	A	AA	AA	AA
ダブルミニホワイト	E	A	E	A	AA	AA
ニューリネーションアプリコット	E	C	C	AA	B	AA
パピオンピンクフラッシュ	E	AA	D	B	B	AA
ピーターブルーライン	E	AA	AA	AA	A	AA
ピッコローサスノー	E	A	D	B	D	A
エクローサピンクフラッシュ	E	A	E	B	AA	AA
ピッコロワイン	D	C	B	AA	AA	AA
プラチナバイオレット	E	A	C	A	A	AA
ボレロホワイト	B	AA	AA	AA	AA	AA
モレットマリン	E	AA	E	B	D	AA
ロジーナブルー	E	D	D	A	A	AA

抽苔株率（AA：90～100%、A：80～90%、B：60～80%、C：40～60%、
D：20～40%、E：0～20%）

4　考察

今回の作型で種子冷蔵処理栽培を行なった 16 品種のうち、ジベレリン無処理で移植・直播栽培のいずれも抽苔株率（花茎が伸長した株の割合）が 90%以上となった品種は、エースホワイト、エクローサグリーン、ボレロホワイトの 3 品種であった。

このことから、品種を選定することで、種子冷蔵処理による出荷期間の拡大が可能となることがわかった。

種子冷蔵を行なった方が、発芽揃いやセルトレイ内での生育がよかった。直播栽培を行なった方が、移植栽培よりも抽苔株率が高くなったが、生育にばらつきが見られた。

計画より作業が１ヶ月遅れたため、幼苗期から連続して高温条件下での生育となり、いずれの品種も冷蔵処理を行なうことで抽苔株率の向上が見られたが、抽苔した株が高所ロゼットするなど品質に問題が生じ、当初の試験のねらいが十分達成できたとは言い難い。また、切花品質向上のためには、栽培期間を通じて好適条件を確保する必要があった。

5　活用方法および残された課題

　種子冷蔵処理により、出荷期間を拡大し、出荷率の向上を図るためには、定植時期を早める、好品種を選択する、冷房育苗を組み合わせるといった検証を行なう必要がある。